

# 中興化成工業

# 輻射放熱シートを開発

# 自動車向け品目部品の電動化事業展開

23年に実用化を目指す

ふつ素樹脂加工を手がける中興化成工業（庄野直之会長、東京都港区）は、電動車向けとしてアルミニルムに放熱塗料をコーティングした「輻射放熱シート」＝写真＝を開発する。年内に量産技術を確立し、2023年に実用化を目指す。自動車の電動化や電装化に伴って放熱用シートなどの需要拡大が見込まれることから、これに対応する製品を開発して事業の拡大を図る。同社は現在、建築物用や食品搬送用ベルト、通信機器用基板向けのふつ素樹脂加工が主力で、自動車向け事業の規模は小さい。輻射放熱シート事業で自動車関連事業の売上比率を高める計画だ。

同社が放射用途の製品を手がけるのは今回が初めてとなる。開発する輻射放熱シート

は熱伝導率の高いアルミニウムに、ふつ素樹脂を混入した塗料を塗布する。使用温度は最高150度で、シートの厚さは110マイカル。

塗布する技術を確立したとい  
う。軽量なことや、ふつ素が  
持つ耐候性などで他社製品と  
の差別化を図る。

向けの高電圧配線識別用途の  
ふつ素樹脂加工を施した粘着  
テープなどを展開している。現  
在は5G（第5世代移動通  
信システム）の通信機器向

動車シフトで需要が見込まれる輻射放熱シートを開発し拡充を図る。

で生産し、国内に加え、海外向けの輸出品も手がける方針だ。すでに試作品を自動車関連企業に提供しており、用途や需要など、市場調査を進んでいるという。

ト事業で自動車関連事業の売上比率を高める計画だ

A black and white photograph showing a close-up of a person's hand holding a white, irregularly shaped object. The object has a rounded, somewhat triangular or teardrop-like form, with a slightly textured surface. It appears to be made of a soft material like paper or fabric. The hand is positioned palm-up, with the object resting in the center of the palm. The background is a solid, dark gray or black, which provides a strong contrast to the white object. The lighting is focused on the object and the hand, creating soft shadows and highlights that emphasize its shape and texture.

は熱伝導率の高いアルミニウムに、ふつ素樹脂を混入し、塗料を塗布する。使用温度は最高150度で、シートの厚さは110詫丸。

塗料は外部から調達して、同社が塗布技術を提供する。塗料はふつ素を用いるため、加工温度が高く、取り扱いが難しい。同社では長年培ったふつ素関連のノウハウを生かし、アルミニウルムに均一に塗布する技術を確立したという。軽量なことや、ふつ素が持つ耐候性などで他社製品との差別化を図る。

電動車などでは放熱対策が導入されているが「さらに放熱したい部分」（東京支店営業第1課の鳴澤友稀主任）や、スペースの狭い場所に装備する筐体など向けでの需要を見込む。

向けの高電圧配線識別用途（ふつ素樹脂加工を施した粘着テープなどを展開している。現在は5G（第5世代移動通信システム）の通信機器向け基板のふつ素樹脂加工などの需要が好調で、自動車向け事業の売上規模は小さい。また、ふつ素は「放熱よりも温の特性を持つ」（同）ことから、放熱用途の製品はここまで手がけてこなかった。電

自動車シフトで需要が見込まれる輻射放熱シートを開発して、自動車関連事業を伸ばし、経営のポートフォリオの拡充を図る。